

品種	作付面積 (応募面積)	単収 (玄米換算)	地域の単収との差(地域の平均単収) ※作況補正後の地域の平均単収
北陸193号	約8.5ha	693kg/10a	200kg/10a(493kg/10a)

【経営概況】

- 家族経営(本人と父、母)
- 近隣農家(12戸)の乾燥・調製作業を受託

【作付品目】

- 主食用米:にこまる 等 1.9ha
- 飼料用米:北陸193号 8.5ha
- 小麦、はだか麦 4.2ha
- 大豆 4.6ha

【取組のきっかけ】

- 主食用米との作期分散が図れることや経営の安定につながるなど、JAから飼料用米のメリットについて説明があり、興味をいだいたことがきっかけとなった。

【取組概要】

- 平成24年産から「ミズホチカラ」ほか複数の品種でJA出荷により取り組んだ。令和2年産からは、JAの勧めもあり、より多収が期待できる「北陸193号」に品種変更した。収穫時期が遅いことから、主食用米との作業分散や収穫等作業でのコンタミ防止が図られている。
- 生産コスト等の低減を図るため、①追肥での安価な汚泥発酵肥料使用による肥料費の低減、②立毛乾燥による燃料費の削減、③フレコン出荷による包装資材費の低減や省力化、④自ら農機具の点検・整備を行い、長期使用による農機具費の低減、⑤病害虫防除剤(箱剤)の育苗箱散布及び移植時の基肥・除草剤の同時散布による労働力の低減への取組を行っている。
- JAと生産者が連携し、JAの「飼料米研究会」での意見交換など、生産者同士が切磋琢磨し、単収向上を目指している。
- JAに出荷した飼料用米は、飼料メーカーにより販売され、トウモロコシなどと配合された後、地元の畜産農家へ供給されている。

